

主題や題材の内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校 4 学年 〈光村図書 版〉

【主題名】 「『いじめはいけない』と言えるためには」 （4 時間扱い）

使用教材：「ひとりぼっちの Y ちゃん」「つまらなかった」「みんなちがってみんないい」「ちょっと待ってよ」

【養う道徳性 ※関連する内容項目等】

- ・誰に対しても分け隔てをしないで接したり、友だちとの交流の中で互いを認め合ったりしながら、積極的に差別や偏見をなくそうとする態度を養う。
- ・ A 個性の伸長 B 相互理解，寛容 C 公正，公平，社会正義

【主な学習活動と留意点】

児童の実態 ※肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方

いけないことは分かっているものの、大勢の友だちがいる中では、いけないことはいけないと言えない子ども。

働かせる見方・考え方：様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること。

	学習活動	配慮点（各教科等，体験活動等との関連）
<p>問題意識を共有する</p> <p>自分自身との関わりで・多面的・多角的に考える</p> <p>生き方を考え深める</p>	<p>1 教材名「ひとりぼっちの Y ちゃん」 C 公正，公平，社会正義（6 月）</p> <p>中心的な発問</p> <p>誰に対しても分け隔てなく接することは、どうして大切なのでしょう？</p> <p>板書の工夫</p> <p>話合いの工夫</p> <p>主題「『いじめはいけない』と言えるためには？」設定</p>	<p>仲間外れにしてしまった「わたし」の気持ちを話し合うことで、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さを実感できるようにする。</p> <p>役割演技を通して相手を避けようとする人間の弱さを共有し、相手への理解を深め、自分も相手に理解が得られるように思いを伝えることのよさを実感できるようにする。</p> <p>学校行事 (2) 文化的行事 …音楽会</p>
	<p>2 教材名「つまらなかった」 B 相互理解，寛容（7 月）</p> <p>中心的な発問</p> <p>信二さんとさとしさんには、何が足りなかったのだろうか？</p> <p>役割演技の工夫</p> <p>話合いの工夫</p>	<p>自分自身のよさを自分が認めることを語り合うことで、自分らしさが生まれてくることを実感し自分らしく生きようという気持ちをもてるようにする。</p> <p>学校行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むこと</p>
	<p>3 教材名「みんなちがってみんないい」 A 個性の伸長（9 月）</p> <p>中心的な発問</p> <p>あなたの自分らしさとは何でしょう。それをどのようにいかしていきたいです</p> <p>話合いの工夫</p> <p>説話の工夫</p>	<p>「京一」の思いを話し合う中で、誰に対しても分け隔てをせず、公正，公平な態度で接することの大切さについて、これまでの追求も基にしながら自己の生き方を振り返る。</p> <p>学級活動 (2) イよりよい人間関係の形成</p>
	<p>4 教材名「ちょっと待ってよ」 C 公正，公平，社会正義（11 月）</p> <p>中心的な発問</p> <p>京一が、誰に対しても分け隔てなく行動するためには、どんなことを考える必要がありますか？</p> <p>板書の工夫</p> <p>話合いの工夫</p> <p>主題「『いじめはいけない』と言えるためには？」自己評価</p>	

次学年へのつながり（児童に願う姿）

互いの違いを認めたり相手の意見を素直に聞いたりして、相手の立場に立って考え尊重する態度を養う。